

宗像医師会における 在宅医療推進に向けた活動

福岡県宗像医師会在宅支援室
室長 阿部 久美子

宗像医師会在宅医療連携拠点事業室(むーみんネット)

福岡市と北九州市の間に位置しベッドタウンとして発展。大島や地島も地域に含む

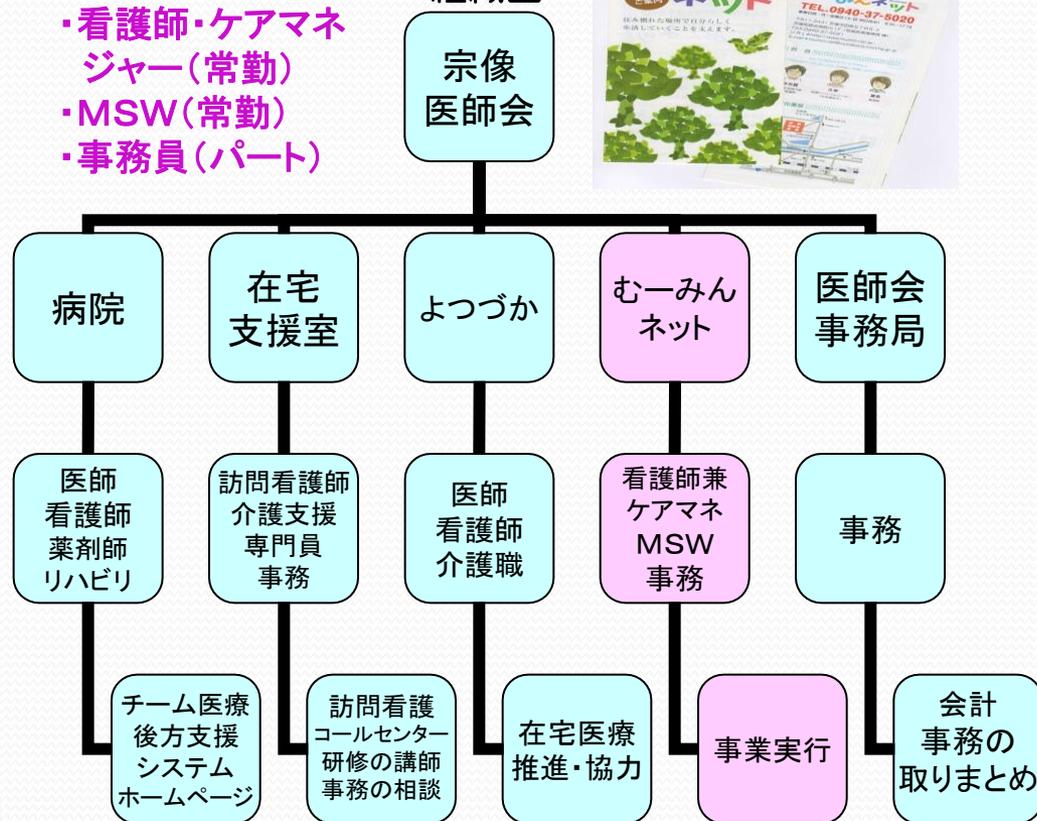


むなかた地区(宗像市・福津市)

人口 約 15万人
面積 約 172km²
高齢化率 約 25%

- ・看護師・ケアマネジャー(常勤)
- ・MSW(常勤)
- ・事務員(パート)

組織図



<医師会が事業を行う強み>

- ・共同利用施設内での協力体制
- ・地域に根ざした医療と看護の活動を基盤に
- ・行政、職能団体との協働に取り組みやすい
- ・住民への普及・啓発活動

①在宅医の確保

●医師の事例検討会・交流会

11月14日 参加者27名



- 事例紹介・意見交換→訪問看護との連携で緊急時往診の負担軽減
- 一人の在宅医の負担を軽減するため、複数の医師間で情報共有する在宅診療 情報提供書の作成→不在時の代診が可能
- 連携の方法と代診の診療報酬算定の取り決め(看取りとターミナル加算の区分等)→取り決めに公表することにより気兼ねなく依頼が可能
- 受診歴のない方の医療・介護情報を事前に病院システムに登録し、緊急入院に備えたバックベッドの体制の構築→在宅療養への安心を担保

在宅用診療情報提供書

科	先生
総合元医療機関	
診療種別名	
住所	
T E L	
F A X	
紹介状発行	
診療種別名	科
医師名	性別 男女 職業
患者住所	電話番号
生年月日	年 月 日 (才)
保険情報	公費 公費番号
連絡先	ケアマネ 訪問看護 緊急連絡先病院 その他
日常生活	自立生活 認知症の程度
アレルギー	アレルギー() 無 ()
感染症	HIV(+/-不明)・HCV(+/-不明)・その他()
既往歴	糖尿病() 高血圧() 脂質異常症()
現在服用薬	抗がん剤() 抗凝固薬()
現在の処方	処方()
備考	

●ターミナルの場合、本人への告知の状況

在宅医療診療報酬

在宅医療にかかる診療報酬について

患者さんと共有できる

診療所

外来点数マニュアルより一部抜粋し作成

2012年4月版

診療報酬研究会編著

宗像医師会在宅医療連携拠点事業室

むーみんネット

バックベッド受け入れ手順書

病診連携で支援するバックベッド確保やレスパイト入院

受け入れ手順

目的

宗像医師会病院は在宅医療を包括的、継続的にできることを支援していくためバックベッド(緊急一次入院ベッド)の確保やレスパイト(家族等介護者の休息入院ベッド)入院受け入れを確保し、在宅医療を支援しています。長期の時まで自宅でも希望されている方も患者さんが希望した場所で、安心して療養ができるように病院としても受け入れ態勢を整えています。患者さんや家族の要望に答え、在宅診療に携わる医師や訪問看護師等との連携をタイムリーにとれる仕組みです。

対象者

在宅療養中の方で緊急の入院や家族の介護休息のために入院が必要な患者

バックベッドまたはレスパイト入院の流れ

～在宅医やかかりつけ医、患者さん・ご家族へ～

- 在宅療養中の方で入院や受診の必要性が発生すれば在宅医やかかりつけ医の先生方は宗像医師会訪問看護ステーションと相談の上情報提供書をお願いします。
- 地域医療連携課は訪問看護ステーションから登録の連絡が入りますので、外来診療録の有無を確認してください。
- 地域医療連携課の職員は入院担当医師へ連絡をし、登録患者の報告をお願いします。
- 地域医療連携課は訪問看護ステーションが登録の後は診療情報提供書の原本が訪問看護ステーションから届きますので「訪問看護情報共有システム」のファイルへ保管します。(入院後原本を外来診療録に差し替えて、保管いたします。)
- 外来診療録のある方は外来診療録へ情報提供書を添えて保管し、来院に備えます。
- 外来診療録のない方は「訪問看護情報共有システム」へ登録して「訪問看護情報共有システム」にログインしてください。

H24年3月～25年8月末 登録20名
(入院死亡3名・継続2名・在宅看取り15名)

②専門職の技術の向上

●職種別研修

実施日	対象者	テーマ	参加者
7/13	訪問看護師・薬剤師	「スキンケア・褥瘡ケア」	45
8/9	介護職	「看護の視点を生かした高齢者ケア」	81
9/27	介護・看護職員	「慢性腎不全・透析に関する学習会1」	77
10/11	介護支援専門員	「地域包括支援センターの困難事例」	71
11/14	医師	「在宅医師の負担を軽減するための事例検討会」医師間の連携	27
2/14	訪問看護師	「在宅ターミナル支援事例検討会」	35
3/7	介護・看護職員	「慢性腎不全・透析に関する学習会2」	85



- 職種が抱える課題に焦点をあてたテーマを設定し好評で継続研修を希望
- 在宅医療を支えるスタッフのスキルアップへ

●多職種合同研修

実施日	対象者	テーマ	参加者
12/6	多職種	「介護職との連携」	80
3/12	多職種	「噛む」	105

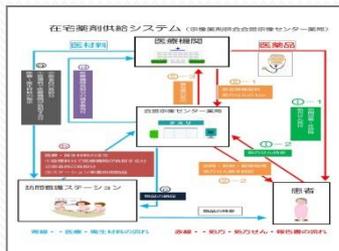
- 多職種でグループワークを実施
- 多職種間の顔の見える関係づくり
- 多職種による意見交換(視点の違い)

③関係機関の連携促進

●資源ガイド作成



●在宅医療ネットワークマニュアル(薬剤医療材料・在宅医連携・災害支援情報)



- 居宅にて薬剤・医療材料小分けが可能
- 24時間麻薬・注射薬剤の供給が可能
- 指導報告書提出(医師・ケアマネジャー・訪問看護)
- 薬剤師が退院時共同指導・介護サービス担当者会議参加

- 医療機関・介護事業所資源ガイド作成
→CDを配布・ホームページに掲載
→診療機能情報の作成(拠点で管理)

●ホームページ開設

●iPadを使ったシステム運用中!

- 9月に開設、研修会の度にアクセスの増加
- 研修予定表
- 新規登録の依頼

画像添付

- 企画情報管理課・在宅医・訪問看護師・ケアマネジャー・薬剤師・地域連携・業者でシステム開発
H25年8月末、登録23名(がん末期・神経難病)

月	9	10	11	12	1	2
アクセス数	867	1083	1457	1394	1416	2040

④住民への普及・啓発

●在宅医療シンポジウム(2回)計550人

- 第1回のテーマ「あなたの家にかえろう」 参加者130人
- 第2回のテーマ「“終の棲家”について一緒に考えてみませんか」 参加者420人
 - 参加者「在宅でも様々な支援があり、残された最期を住み慣れた家で過ごすことを考えてみたい」
- 無料健康測定コーナー(認知度測定・骨密度など)
- 在宅療養相談コーナー(在宅医師・訪問看護師・ケアマネジャー・ソーシャルワーカー)



●在宅ホスピスを語る会(参加者56人)

- 在宅看取りをされた方の体験談
- 在宅療養を選択したきっかけ 苦労したこと看取り後の思い
- 質疑応答が盛んに行なわれ 住民の意識の高さを認識
- ピアノ演奏・プチケーキ・花で和やかな雰囲気演出



●老人クラブの会合に参加(6回)計300人

- 地域包括支援センターの依頼で事業開始
- 「在宅医療」という選択肢を説明
- 住民の意識が高いことを実感



⑤災害対策支援

- 11月29日(第1回 参加者 52人)医療依存度の高い方への支援(訪問看護・医療機器)
- 12月13日(第2回 参加者 48人)行政・消防署の取り組み
- 1月25日(第3回 参加者 32人)難病の方への支援(保健福祉環境事務所共催)



- 介護支援専門員・地域包括支援センターに災害時要援護者把握のアンケートを実施
→それぞれの取り組みについて情報共有の要望が多く、報告会を開催
- 報告会後に災害時必要備品を検討し配置

⑥相談支援体制の構築



相談風景

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	3	6	1	5	3	5	5	5	5	39

